



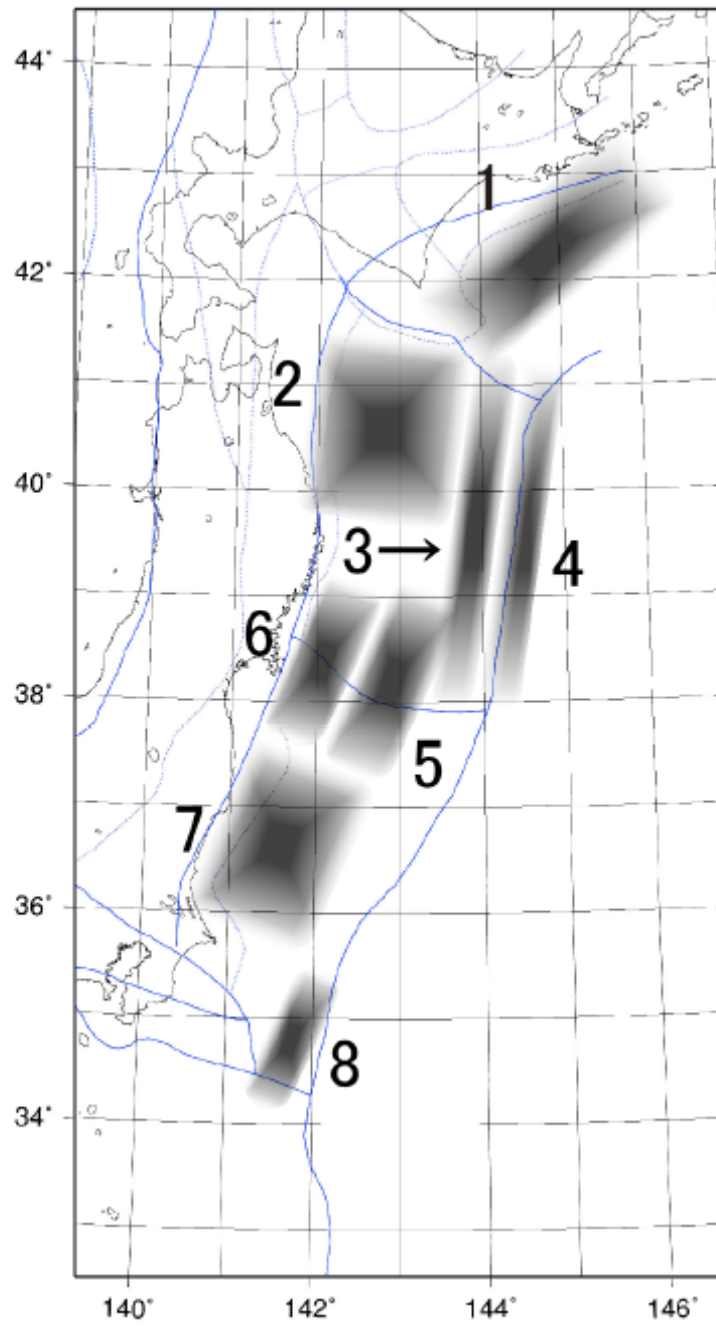


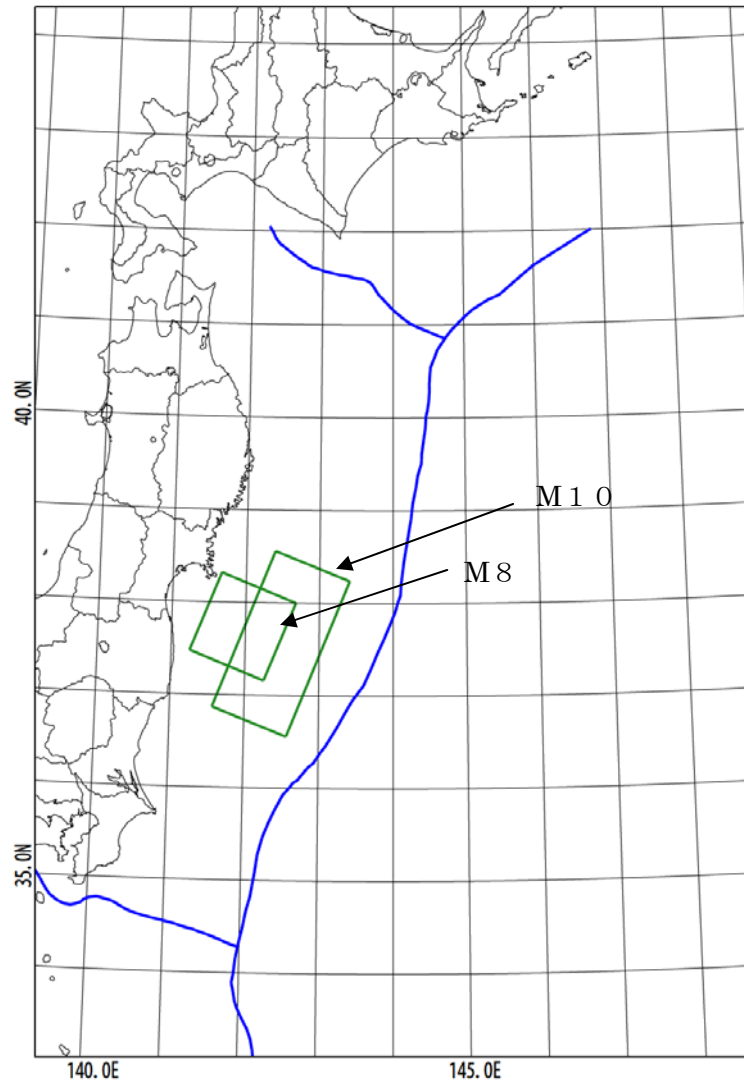
## 津波の安全性評価に係る主な経緯

	主な経緯	当社の対応
	1F S41～47 チリ津波をもとに設置申請・許可 水位)3.122m	
H14.2	土木学会が「原子力発電所の津波評価技術」(以下、「津波評価技術」)刊行	「津波評価技術」に基づく安全性評価を実施 ポンプのかさ上げ、手順書の整備、建屋の水密化等の必要な対策を実施 水位)O.P. + 5.4m ~ 5.7m
H14.7	国の地震調査研究推進本部が長期評価(以下「地震本部の見解」)を公表 土木学会では H15 年度から検討予定の確率論的評価手法に取り入れて検討を実施。 (福島県沖の日本海溝沿いは過去に津波が発生していない領域。波源モデルがない。)	
H15 ~ H17	土木学会で確率論的評価手法の検討実施 	土木学会の検討を注視するとともに当社としても確率論的評価手法の検討実施 
H18.7	土木学会が H15 ~ H17 の確率論的評価手法の検討成果を論文として取りまとめ これ以降、継続して土木学会で、確率論的評価手法の検討を実施。	H15 ~ H17 の検討成果である開発段階の確率論的評価手法を用いて試行的解析を実施し、第 14 回原子力工学国際会議(ICONE - 14)で論文発表
H18.9 H19.7 H20.3	耐震設計審査指針 改訂 (地震随件事象である津波の安全性に関する文言が明記された) 耐震バックチェックの指示 新潟県中越沖地震発生 - 中越沖地震に関する対応実施	耐震バックチェック開始  耐震バックチェック 中間報告書 提出 (津波は最終報告書で評価予定)
H20.4 ~ 10 H20.12	貞観津波に関する論文案を佐竹氏から受領	「地震本部の見解」に対する試算実施 波源モデル等の審議・津波評価技術の改訂を土木学会へ要請  貞観津波に関する試算実施
H21.2 H21.8 ~ 9	保安院へ貞観津波説明	耐震バックチェック最終報告書の提出に向け、最新の海底地形と潮位観測データを考慮した上で、「津波評価技術」に基づく安全性評価を行い、必要な対策を実施 水位)O.P. + 5.4 ~ 6.1m
H21.4 H21.6 H21.7 H21.11 H22.3	産総研 佐竹氏が貞観津波に関する論文発表 (波源モデル確定には追加調査が必要との結論) 当社バックチェック中間報告に対して、合同 WG で貞観地震の指摘 保安院 バックチェックの中間報告に対する評価 (「貞観津波の調査研究の成果に応じた適切な対応」)	地震本部の見解と同様、貞観津波についての審議を土木学会へ要請 津波堆積物調査 (開始) 津波堆積物調査 (終了)
H23.1 H23.3	保安院へ説明	津波堆積物調査の結果( )を日本地球惑星科学連合大会へ論文投稿 福島県南部で貞観津波の津波堆積物は確認されず

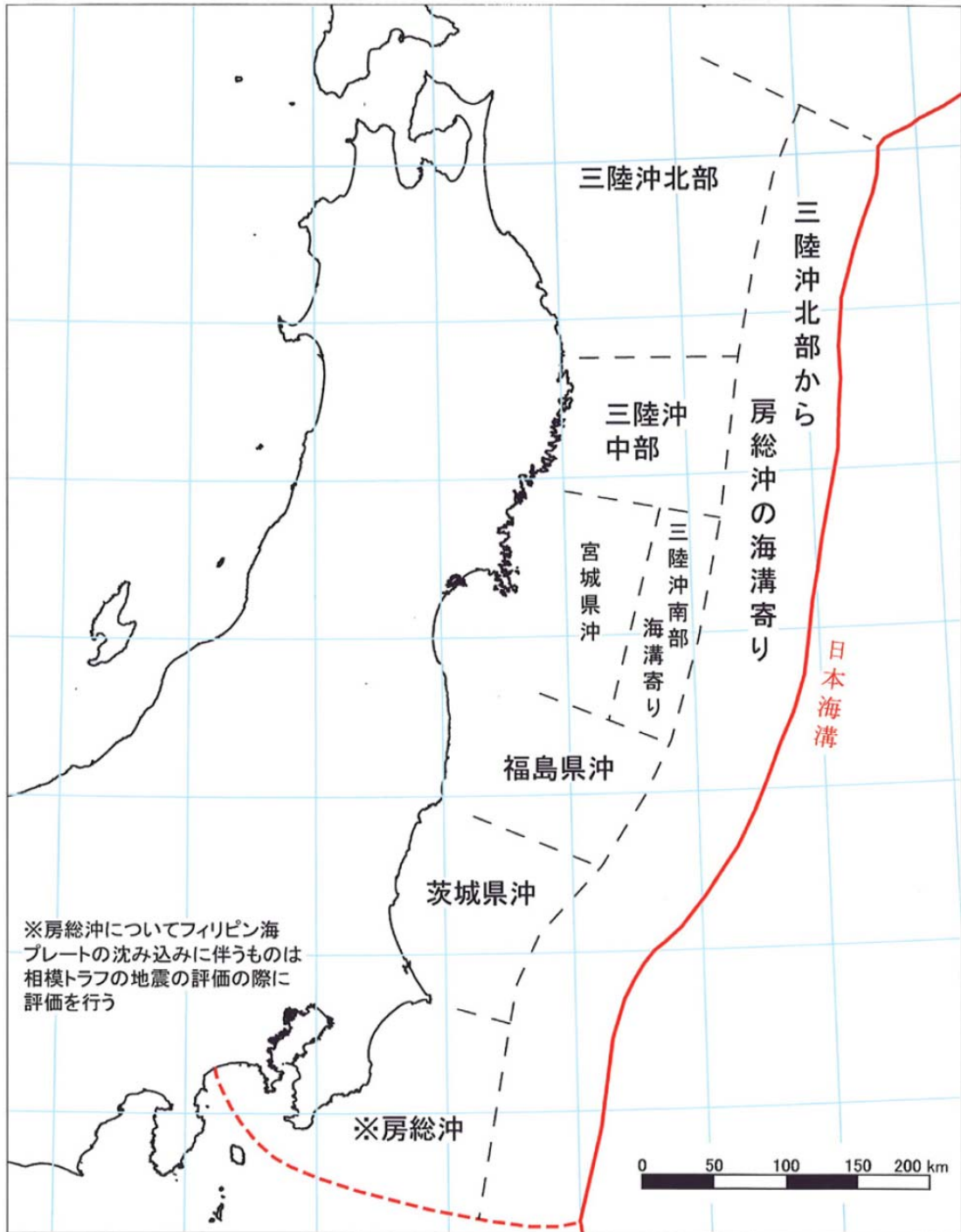
審議中



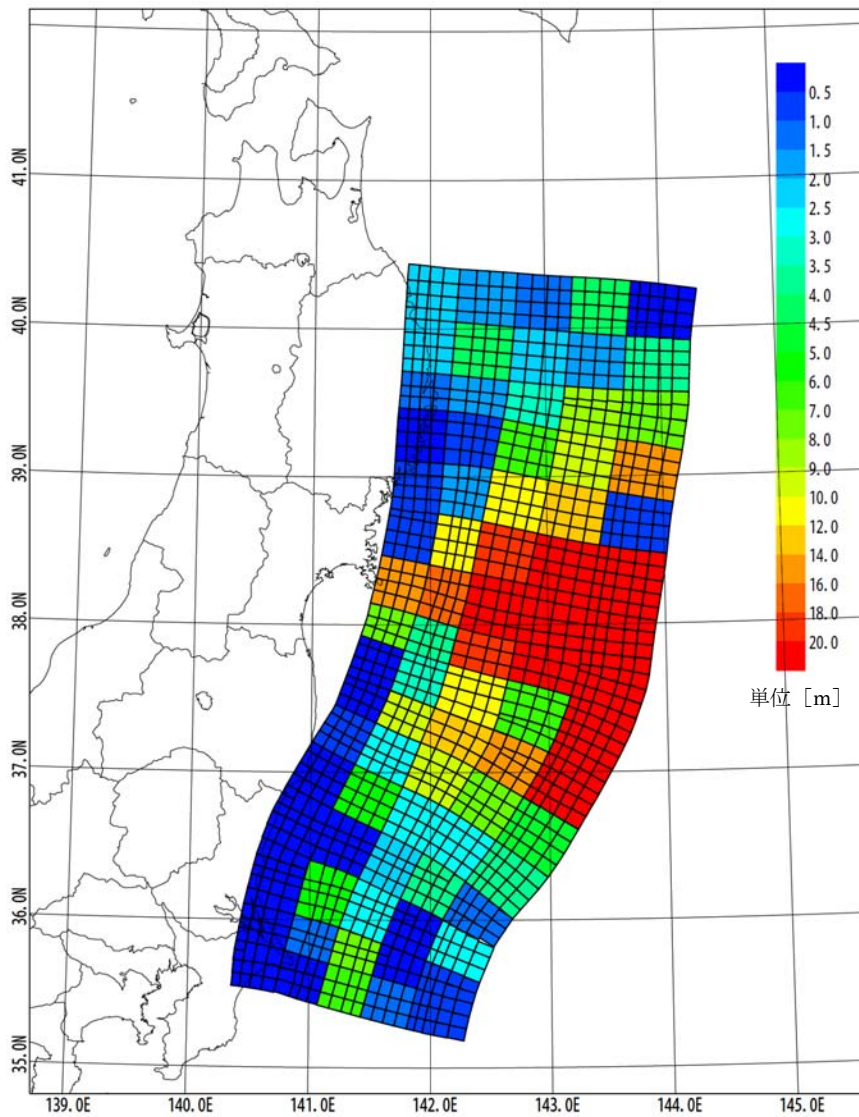
土木学会（2002）の波源



貞観津波（佐竹ほか（2008））の波源



三陸沖北部から房総沖の評価対象領域  
(地震調査研究推進本部 HP 地震調査委員会平成 14 年 7 月 31 日)



インバージョン解析から推定した波源 (東京電力、2011)